



### 将来への責任を果たしたい

3月議会では、平成30年度予算案に反対しました。目の前の課題に対応するのはもちろん、「将来への責任」を果たせるよう最大限の努力をすべきと考えた末の結論です。（理由詳細は裏面参照）

一般質問では、「継続性」をキーワードに高齢者の生活支援、観光、公共交通といった異なる課題を取り上げました。

いずれも、大きな将来ビジョンがないから場当たり的な対応になってしまっているのではないか、という問題意識から、継続性を持った取組みを要望したところです。

子や孫の世代に、美しい館山を残していくためにはどうしたらいいのか。市民の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



### 3月議会報告・・・むろあつみの行政一般質問より

#### ◎生活支援コーディネーターの役割

約3年前から、市の非常勤職員として配置された2名の生活支援コーディネーターが地域密着で活動され、30名の研修修了者もコーディネーターになるべく意欲的に活動してきていました。ところが突然、来年度から体制を変更するとの情報が流れ、市民の間に不安が広がりました。これまで活動してきたことを無駄にせず継続性を保つこと、方針転換する前に現場の声をよく聞いてから決定すること、市民への広報ももっときめ細かく行うことを要望しました。

他市と異なる館山市の特徴として、地域コミュニティがしっかりとれていることが挙げられ、これを活かしつつ、社会福祉協議会も一緒に生活支援の体制作りを行うことも求めました。

#### ◎観光に関する継続性について

建設経済委員会で、民間の方々との観光に関する意見交換を行いました。その会合の場で、平成17年に「観光立市たてやま推進協議会」が立ち上げられ、その協議会で「行動計画」を策定した、と民間の参加者から教えられました。「市民が無報酬で何度も会議をし、プロジェクトごとに行動計画を作ったのに、その後の対応がひどくとてもガッカリした。せっかく話し合い、素晴らしい計画ができて、生かされなかったのはとても残念です。」というものです。結果を出している自治体は、専門の職員を育て、事業を地道に継続していますので、そうした事例を紹介して観光に関する情報共有・意見交換の場作りを行うよう要望しました。

#### 【むろあつみの市政報告会&懇談会】

日時：5月13日(日)14時～16時  
場所：コミュニティセンター1階集会室  
ゲスト：JRバス関東株式会社  
代表取締役 中村泰之 様

★全国の公共交通の先進事例や、JRバス関東の方向性等、お話し頂きます。

\*どなたでもご参加頂けます。予約不要。

問合せ先 FAX 29-5333

Email muroatsumi@gmail.com



#### ■請願：地域公共交通網形成計画策定についての要望

西岬地区区長会と観光協会の連名で昨年12月議会に提出された公共交通に関する『請願』が総務委員会で継続審査とされていましたが、3月議会では全員一致で可決されました。平成30年度予算にも計上され、今後2年間かけて、計画を策定していくことになりました。

多くの議員がこれまでも関心を持って取り上げてきた課題ですので、長期的なまちづくりの観点から、持続可能で使い勝手の良い公共交通網を構築していくよう、今後も注視して参ります。



JRバス主催：西岬地区住民との会合



## 平成30年度館山市一般会計予算 反対討論 (全文)

先日の予算審査特別委員会でも反対討論しましたが、職員の皆さんが精魂込めて作られた予算案に反対する以上、その理由をできる限り丁寧に説明すべきと思い、再度、討論に立つことにしました。

反対の大きな理由は、このままのやり方を続けていては、市民に対する『将来への責任』を果たすことができない、という思いを拭い去ることができないことです。各担当課レベルでは、目の前の課題に対し、出来る限りの方策を考えていることは分かります。ただ、全体を総合的にみる視点が欠けていて、長期的にみると結果的に非効率となるようなことが繰り返されていると思うのです。

その一つの例が、第三中学校の整備事業です。予算案には、30億円規模の建替えを前提とした基本設計料3,000万円があげられています。一方、市内の中学生の人数は、4校体制になった昭和50年代の2,500人から現在1,000人程度まで減少し、20年後には約700人まで減ることが想定されており、中学校再編の議論を先に進めないと、結果として大きな無駄が生じる可能性もあります。昨年6月に作られた「館山市公共施設等総合管理計画」では、「20年後の生徒数を考慮した適正な学校数を検討し、学校の統廃合を図ります」という基本方針が出されました。一方、教育委員会の答弁によると、中学校の適正規模は12～18学級であり、今後それは無理なことが明らかなのに「中学校再編は考えていない」と言い切るのはなぜでしょうか。「耐震を急がなければならない」と言いますが、本当に危険な状態にあるのであれば、今までもこれから建替えが完成するまでも、何年もその危険な学校に通わせていることの方が問題であり、先にやるべきは三中の生徒を他の学校に一時的にでも避難させるという生命の安全の確保ではないでしょうか。

もう一つの事例が、清掃センターの老朽化問題です。一昨年、市長が広域からの離脱を宣言した際に説明した理由は、現在の設備の大規模改修による延命化と新施設建設を並行して負担する財政的な余裕はないから、ということでした。しかしながら、現在、大規模改修を進めた場合にも、次の施設建設の準備を進める必要があり、二重の負担であ

ることには変わりありません。長期的に考えれば、今、大規模改修するよりも新しく建設した方が有利になる可能性もありますが、比較の検討すらせずに、予算案では大規模改修を前提とした計画作成業務委託料300万円を計上しています。さらにその先の新施設建設についてどう考えるのか、という見通しも全く語られず、このままでは市民に納得できる説明ができません。

ところで、私は1年前の平成29年度予算案については、課題を指摘しながらも、賛成の討論をしました。残念ながらこの1年間で大きな状況の変化はみられません。財政改革に取り組む“スピード感”に関して、民間企業と比べると大きな落差を痛感します。

財政調整基金は、平成34年度に底を尽き、その後、形式収支が赤字となる推計が示されています。そうなれば各種基金も取り崩していかざるを得ず、20年後に必要とされる市庁舎建替えの目途もついていません。

『選択と集中を進める』といっても従来の対症療法的なやり方を続けているだけでは、財政改善は見込めず、将来へ向けた先行投資、自主財源確保に繋がる産業振興策へ向けた思い切った投資もできない、という状況を変えていくことはできません。

経済施策に関しては、色々な場面で継続性の問題が浮き彫りになってきました。一番大事な観光施策について、民間からも一貫した取り組みの必要性を指摘されていますし、一時期大々的に宣伝していた「食のまちづくり」では、関係者が一番の課題と認識している域内流通の仕組み作りに対する取り組みが停滞し、予算案にもあがってきていません。

私は、政治の責任は、目の前の課題に対応することはもちろんのこと、長期的な展望を持ち、次世代に受け継げるものをしっかりと残していくことという強い信念を持って活動しています。予算案が議会で否決された場合、必要最低限の暫定予算が組まれると聞いていますが、むしろ、それくらいの危機感をもって抜本的な見直し、改革が必要な時期に来ているのではないのでしょうか。私自身、将来へ責任ある行動をとるべきと考え、今回、反対の決断を下しました。以上です。



### ★街頭演説を始めました!

毎週日曜日、午前中10時から  
“尾張屋(真倉)さん”前、他  
毎回、テーマを決めて館山市への  
思いを語ります。  
見かけたら是非声をおかけください。  
YouTubeで動画も  
観られます。



◎6月議会、一般質問は13、14日です。

### むろあつみ後援会 からのお知らせ

#### ★むろあつみ後援会「会員」募集中!

詳しくはお問合せください。

#### ★ミニ集会も行っています。

数人からでもお気軽にご連絡ください。

#### ★事務所移転します。

館山市波左間1049-2

muroatsumi@gmail.com FAX:29-5333